

Dream×Meister **ドリーム×マイスター**



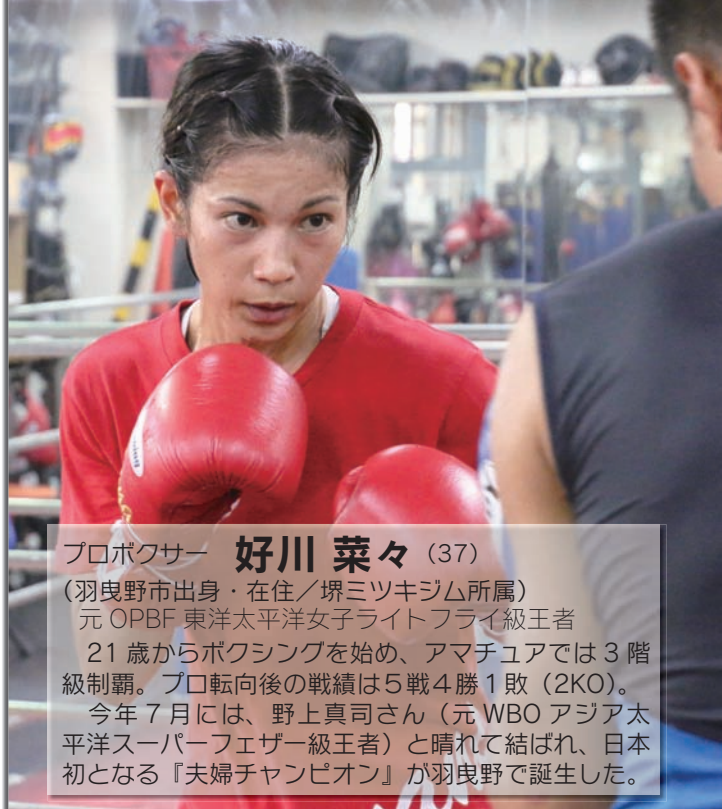
まだ、あきらめない ～夢に向かって～

立位の打撃系格闘技 ボクシング。

リングに上がることが許されるのは、

トレーニングの苦しさを知った者のみ。1ラウンド3分、60秒のインターバル後、決着がつくまで、拳を何度も突き合わせる。勝ち続けるためには、体力以外にも、強靱な精神力を持つことが求められる。

今春、世界タイトルマッチに敗れた菜々さんだが、夫でマネジャーの野上真司さんと、再び夢に向けて動き出した。



プロボクサー **好川 菜々** (37)

(羽曳野市出身・在住/堺ミツキジム所属)

元 OPBF 東洋太平洋女子ライトフライ級王者

21歳からボクシングを始め、アマチュアでは3階級制覇。プロ転向後の戦績は5戦4勝1敗(2KO)。

今年7月には、野上真司さん(元WBOアジア太平洋スーパーフェザー級王者)と晴れて結ばれ、日本初となる『夫婦チャンピオン』が羽曳野で誕生した。

日課の峰塚公園トレーニング 走る、走る、走る!

『芝生はアスファルトに比べると、関節や腰にかかる負担が軽減されるから。』と夫の真司さんは言う。『3秒遅れ、ペースあげて』と秒単位で管理されたランニングは、高低差のある公園内を人とは違うスピードで駆け抜ける。間髪入れずに、30mの坂道ダッシュ。ゴール後すぐに出発点まで戻ると、数秒後には次のスタートが待っている。

『この公園は私のトレーニングのためにある。』と感謝する菜々さん。トレーニング中には年輩の方に『ダッシュの切れが悪い。』、『ダイエットには走りこみすぎやでえ!』などと、声をかけてもらうことも多い。



WBA 女子世界ミニマム級王座に挑戦 初めて知った世界戦の裏側

堺市(4月29日)で、行われた夢の世界戦。満員御礼の観客席。多くの方に支えられ、最高の舞台は整った。しかし、夫婦は舞台準備に想像以上の労力と時間を費やしていた。タイトルマッチを催すのに約1,000万円が必要と言う。内訳はチャンピオンサイドの滞在費、オフィシャルレフリーの費用、協会への承認料、そしてファイトマネーなど。メキシコの合宿から

帰国した3月初旬から試合前日まで、資金集めや会場配席などの雑務に奔走。クラウドファンディングでも賛同を募った。男子プロの注目を集める試合ではスポンサーも多く、菜々さんのように本人らが駆けまわることはないという。

結果は10ラウンド判定負け。KO寸前まで攻め込まれたが、声援に支えられ倒れなかった。

世界チャンピオンをめざして

9月末にはメキシコに渡り再び本格的に動き出す二人。ベルトを奪取するためには、前哨戦での勝利、チャンピオンサイドとの交渉、資金の工面など、課題は山積みだ。

選手を続ける決意を固めた菜々さん。『やることはすべてやる。』と夫と共に世界王座を狙う。



▲ 峰塚公園「あすまや」でストレッチング



今年8月大阪市内で結婚式を挙げた。新居は羽曳野。

編集後記 世界タイトルを目指す妻、支える夫。普段の会話もボクシングのことばかり。取材時に体験したボディ(お腹)に5kgのボールを落とすトレーニング。悶絶でした。羽曳野市からボクシングの世界チャンピオンが誕生することを、心より願っています。